

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：1～3歳児クラス)

モニカ都立大園

M  nica

テーマ

パンジーとビオラの探究

設定理由

一年を通して様々な植物に出会ってきた子どもたち。園庭やテラスに新しい植物が増えるに興味を持って観察する姿や、成長を気にかける様子があったため、この季節にあったパンジーとビオラの探究をすることでさらに植物への興味・関心を深めたり、植物を美しい・大切と思う気持ちを育みたいと考えた。

対象クラス

1～3歳児クラス・10名

活動のねらい

植物の観察を通して
その美しさや面白さに気づき
共感的な関係性を育む

キーワード

「どんなふうに見える？」 「どう？」

活動期間

令和8年1月～2月

活動回数

計3回

活動①

パンジー、ビオラに出会う

準備物

パンジー | ビオラ

環境構成

園庭、子ども2~3人、保育者1人



活動②

トレース台の上で観察、デザインする

準備物

パンジー | ビオラの花 | 葉
トレース台 | 机

環境構成

薄暗くしたホール、子ども1~2人、保育者1人



活動③

パンジー、ビオラを描く

準備物

白模造紙 | みつろうクレヨン
ビオラ | パンジー | 拡大レンズ



活動① パンジー、ビオラに出会う

R8年1月

園庭にパンジーとビオラの鉢植えが増えた。興味津々な様子で近づいていたので、一緒にじっくりと観察することにした。



「こっち(パンジー)は大きくて、こっち(ビオラ)は小さくない」と指をさして違いの発見を共有する。「葉っぱの大きさも違うから同じ(種類)じゃないよ」等と子どもたちは気づきを語り、共有していく。



「この紫すき」ビオラを指差し、その色の美しさに魅了されていた。保育者が紫色のパンジーを指差し「こっちは？」と問いかけると、「そっちは違うよ。こっちはいい。こっちは好きなんだ。」美しさを感じ取り、お気に入りを見つける。そのまなざしはとても温かく、ビオラを愛おしく思う気持ちであふれている。



花びらがきゅっとすぼまっている花を見つけると、「これは風船なんだよ。お花が開いてるのは、風船が割れて開いているんだ。」と語りだした。また、オレンジのビオラには模様がないことに気づき、「お顔なくなっちゃたんだね。寒いからかくれんぼ？」と呟く。「あったかい土のお布団かけたら、出てくるかな？」と手で握って温めた土を優しく鉢にかける姿があった。

子どもたちの視点で観察すると、思いもよらない様々な表現が出てくる。友だちや保育者と一緒に対話を重ねながら観察することで互いの発見や思いを共有し、一人では気づくことのできなかった美しさや魅力に気づくことができた。この活動を経て、より一層植物を愛おしく思う気持ちが深まったように思う。

活動② トレース台の上で観察、デザインする

R8年2月

剪定のために切ったパンジー、ビオラの花や葉。

落ち着いた空間で改めて観察した。自然と手に取り、並べてデザインする子どもたち。



トレース台に置いた花や葉。園庭で観察した時とは違って見え、吸い込まれるように見入る姿が。「これ、触っていいの?」と保育者に訪ねてから、優しい手つきで触れ始めた。



手に取ることで、鉢植えの花よりも近くで見ることができる。目の前まで持ってきて目を見開き、期待を込めて細部まで観察していた。また、トレース台に並べた葉や、花にそれぞれの物語が紡がれていく。「この小さいの赤ちゃんは、ばらんってとんでお出かけに行くところ。大きなお母さんが行ってらっしゃいってしてるの。」



「このお花とこのお花が一緒の模様だったよね」「大きいのと小さいのがあったよね」

写真で振り返ることでその時の気持ちを思い出し、友だちと対話を交わしていく。

窓から園庭を指差し、「あそこにあるお花をみんなで見たんだよね」と写真だけではなく実物を指さし、ホンモノと写真と記憶を繋げていた。



拡大レンズを覗き込み、よく観察してからクレヨンを手にする姿、また覗き込みながらクレヨンで描く姿があった。色、形、質感を生で感じながら描く子どもたち。

クレヨンを手に取り、花の色を見ながらクレヨンを花に近付けて「この色一緒かな」とホンモノの色と見比べていた。その後徐々に描き始め、拡大レンズ越しに大きく見える花びらを「このくらい大きい!」と模造紙いっぱいに見たまま大きく描いて表現した。またビオラの中心の小さな黄色い模様気が付いた。拡大レンズを覗いたからこそ分かった発見に心が躍り、黄色いクレヨンを手に取って「トントントン」と嬉しそうに点を描いていた。



改めて描いた紙を見つめる。

「この線がお花なの。お気に入り」
「大きくてどんどん続いていくの」
線を指でなぞる。

「他のお花もここに描きたい」
「お友だちいたら楽しいでしょ」
花を自分たちの仲間だと感じる。

植物と私たち。形は違えど、同じ仲間。
自然を身近に感じることで共感的な関係性を育むことができたように思う。

使用物

みつろうクレヨン | トレース台

テーマ：パンジーとビオラの探究

全体の振り返り

パンジーとビオラに興味を持ち、拡大鏡やトレース台を用いて、多様な見方を楽しんだ。触れるときには指先や手のひらで包み込むように、頼ずりしたり話しかけたりする姿も見られた。知っていくことで深まる関係性。わたしとパンジーとビオラがどんどん仲良くなっていく。日ごろから植物を大切に思う姿を保育者が見本となり見せていくことの大切さを感じると共に、子どもたちの思いもよらないつぶやきや心が動いた瞬間を見逃さないよう保育することの大切さを感じた。今後も子どもたちが思わず触れてみたくなるような魅力的なセットアップを試行錯誤していきたい。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ都立大園

〒152-0034
東京都目黒区緑が丘1-2-14
TEL:03-5726-9145
FAX:03-5726-9146